

都農町ひょうすんぼ協同組合を活用した労働力確保(事例1)

【取組の経緯】

- ・漁業協同組合として、近年の自然災害、海水温の上昇等から漁獲量の減少が顕著であること、漁師の経営の安定(閑散期の収入)を図って地域の活性化を考え陸上養殖(育てる漁業)を町へ提案。
- ・提案を受けた町としては、水産業の活性化のため陸上養殖及び水産加工場を軸とした「水産業夢未来プロジェクト」を計画。
- ・水産加工場・養殖事業を検討している中で、人手・人材不足を補う必要があったことから、総務省の「特定地域づくり事業協同組合制度」を活用することとなり、設立当初から発起人・相談役として関わる。
- ・養殖用の海水を確保するため井戸を掘ったが真水のみであったため、養殖用の海水を探していたところ、岡山理科大で養殖に適する好適環境水があるとの情報を得て、岡山理科大及びNTT等との協定を結び共同研究・開発を行う。

【取組の概要】

- ・陸上養殖については、都農町、岡山理科大、NTT東・西日本4者連携によって、好適環境水を使用した7tの水槽2基と人工海水を使用した水槽でタマカイの養殖試験を実施。
- ・施設では、水の濾過や水温管理などシステム化されているが、給餌や糞処理、また、試験データの処理等の人手が必要のため2名の派遣社員を受入、年間を通した施設全般の管理を任せている。

【今後の事業展開】

- ・現在、養殖施設については、沿岸部に設置しているため、津波等の災害に備え、令和8年から内陸部へ移設予定。
- ・規模については、現在の7tの水槽2基に加え、40tの水槽を増設予定。
- ・水産加工場については、現在、民間委託であるが、加工・販売が軌道に乗れば、漁協として運営し、規模拡大を行う予定。



代表理事の金谷さん



派遣社員の三輪さん



好適環境水での養殖試験



人工海水での養殖試験